

A consideration to the relationship between batting and throwing in the fourth grade of elementary school

1K08B193-9 松岡 修三

指導教員 主査 吉永 武史先生 副査 木村 和彦先生

【序 章】

近年、子どもの体力低下問題の深刻化が指摘されている。また、最近の子どもたちは、技能関連体力のみならず健康関連体力までも低下してしまっている。学校教育では、子どもの体力低下を重要な課題としてとらえ、2008（平成20）年に改訂された新学習指導要領にはそのことが強く反映された。

体育科の年間授業時数は微増したとはいえ、特定の運動領域に対して多くの時数を割り当てることは、カリキュラム上のアンバランスを生じさせる。このような問題を解決していくための手がかりとして「動きの類似性」に着目することがあげられる。新学習指導要領では、現行の「ソフトボール」に加えて、「ティーボール」が新しく例示された。ティーボールが新学習指導要領に内容として例示されたことによって、「打つ」技能に関する内容の学習可能性が高まったといえる。

小学校体育における打撃動作の学習可能性については、吉永ら（2010）の研究によって打撃飛距離ならびに打撃フォームの双方において有意な高まりがみられたことが報告されている。また、神谷（2011）の研究では、投距離ならびに投動作の双方において有意な高まりがみられたことも確認されている。上記の研究から、ベースボール型における打撃動作と投動作には、回転運動と並進運動において類似性が存在するのではないかと考えられる。

そこで本研究では、ベースボール型のボールゲームにおける打撃動作と投動作の類似性について検討することを目的とする。

まず第1章では、野球やソフトボールなどのベースボール型に関する専門書や学術論文などを資料として、打撃動作ならびに投動作のメカニズムとそれらの類似点について理論的に検討を進めていく。続いて第2章では、小学校中学年児童の打撃動作ならびに投動作の実態を調査する。東京都ならびに埼玉県内の小学校の中学年児童を対象に、打撃能力ならびに投能力の測定

を実施し、それぞれの動作に関する映像データを収集する。そして、打撃動作ならびに投動作の評価基準に基づいてそれぞれの動作を分析し、その結果を SPSS（14.0J for Windows）によって統計解析を行い、スピアマンの順位相関係数を用いて打撃動作と投撃動作それぞれを構成する要素の相関関係を明らかにする。

【第1章】

打撃動作については、打撃動作を構成する要素を12項目抽出し、それら进行评估基準として設定した。投動作に関しても同様に、投動作の構成要素12項目設定し、それらに基づいて3段階による評価基準を作成した。また、打撃動作ならびに投動作の評価基準より、「構え」、「腰の回転」、「体の軸」、「フォロー」の4項目を双方の類似点として仮説的に抽出した。

【第2章】

打撃動作に関しては、「②立ち位置・方向」、「⑥グリップの位置」、「⑧腰の回し」の3項目の平均点が高く、「構え局面」→「ステップ局面」→「スイング局面」という順でフォーム得点が下がっていくことが明らかになった。投動作に関しては、「①横向き」のみ平均点が高く、打撃動作と同様に、「準備局面」→「主要局面」→「終末局面」という順でフォーム得点が下がっていくことも明らかになった。また、第1章で仮説的に抽出した打撃動作ならびに投動作に関する4項目の類似点について、「打軸」と「投軸」、「打フォロー」と「投フォロー」の2項目で有意な相関関係を確認することができた。しかし、「打構え」と「投構え」、「打回転」と「投回転」の2項目については有意な相関関係はみられなかった。

【結 章】

打撃動作と投動作は、「打軸」と「投軸」、「打フォロー」と「投フォロー」の項目間で動きの類似があることが明らかになった。このことは、限られた授業時数の中で学習成果を保証していくことが求められる体育科のカリキュラムづくりに向けて有効な示唆を与えるものであったといえる。